

全体ミーティング1

令和4(2022)年7月24日(日) 13:30~16:30

ワーク① 宮前区らしいSDCを深めよう

00:05

石塚計画デザイン事務所 千葉:

- 長くなりましたが、ここからがワークです。宮前SDCとして大事にすること、こだわりたいことと
いうのをみんなに出していただきたいと思います。
- 思ったより人数が多い会になったなと思っていて、全員で議論しようとする時間が全然なくなっ
ちゃうので、まず付箋1枚書いてもらって、それをきっかけに何にこだわっているかっていうことを
まずこっちに整理していくっていうことをしたい。
- 次に、進め方を説明すると、シールをお配りしてて、やりたいこと・できること・やるべきことって
いうシールがあるんですけど。
- この「やりたいこと」っていうのは自分の関心事だと思うんですよね。個人的に関わっていく以上これ
はやりたい。例えば子育ての話があったと思うんですけど、子育ての情報とかがある、それを届け
ていくということと、ここで検討していることが噛み合うと良いという意見もさっそくいただい
たので、それはここ「やりたいこと」に関わってくると思います。
- 「できること」は、みなさんの自己紹介の中で背景となる得意なこと、関わっている以上これは活か
せるよね、という。ここは割と自分の中から出てくることだと思うんです。
- 「やるべきこと」は、自分がやりたいわけでも、できるわけでもないかもしれないけど、これが入っ
てないとSDCにならないよね、っていうやるべきこと。
- この3色を、この今まで検討してきたもので、大事だよなっていうところに貼っていくと。そう
いうことをもとに、特に大事にしたいと思うことを語りあいたいと思っています。
- シールを貼っていただいた後は、少し今までの話聞いてこういうこと思ったっていうのを話すって
いう時間を設けたいという3つのことをこれからやっていきたいと思います。

02:11

千葉:

- ここに今何が書かれてるかという解説を吉川がします。

02 : 15

石塚計画デザイン事務所 吉川 :

- 下段のところが、人の巻き込み、いろんなところを巻き込んでいこうということであったり、運営に関するご意見が多かったので、[体制] 図と合わせて下のほうに書かせていただきました。
- やりたい人ができる、柔軟に参加できる、長く続けるためには楽しいことが大切など、「楽しい」ってキーワードがたくさんできました。
- あとは「どんな人が」という話で、やりたい人が実践できるであったり、新しい人がどんどん入ってこられるような雰囲気や、参加者が循環している、新陳代謝がある仕組みを考えたいというご意見をいただきました。
- 若い世代、多世代に参加してほしい、巻き込んでいく仕組みも大事。
- いろんな主体、佐々木さんのコメントにもあるんですけど、区役所であったりまち協、SDC など、いろんな団体が連携して ALL 宮前区で進めていくっていうのを大事にしたい、というコメントもいただきました。
- やっていこうということとしては民間スペースの活用であったり、シンボル・目玉となるような場所であったりとか、ウォークアブルなまちづくりなどの意見が挙げられました。
- 仕組みに関しては、この上のほうで書かせていただいているんですけど、個人のやりたいという提案の実現を支えるであったり、いろいろな方々の課題をちゃんとくみ取る、そういった仕組みってなんなんだろう。そういう視点で考えていくことが大事という意見をいただきました。
- 課題をくみ取る、という例としては、子育てをしているママさんであったりとか、新しく入ってきた人たちの課題であったり、そういった課題をちゃんとくみ取っていくことを大事にしていきたい、ということ。
- こうしたことを実施・進めていくうえで、やっぱりゴールや成果を明確にしていくことが大事だね、ということと、SDC とは何か、役割や機能などをちゃんと明確に説明できることが大事。
- わかりやすさ、というのをすごく大事にしたい、というご意見がありました。あとは楽しさとか、愛着とか、そういうキーワードをたくさんいただきました。

04 : 38

千葉 :

- ではですね、この模造紙の中のここが大事、でもいいですし、こっち側でも構いませんので、このシール3枚をいったん貼りに来ていただき、そして休憩に入ろうと思います。ではお願いします。

05 : 08

千葉 :

- ここからやりたいと思っていることは、本当ならここに貼った理由というのをしっかり伺っていきたいんですが、ひとりひとりが話をするっていう時間がこのプログラムすごくづくりにくかったので、グループでざっくばらんに「こういうこと貼ったんだけどこうだね」というのを近くの人と共有できる時間にしたいと思っています。

- 今貼ったことによって、自分はこんなことができる、こういうことは大事だっていう風にしたんだけど、っていうことをちょっと近くの人と話しながら、「この人はこういう風に考えているんだ」ということを深めるとい感じにさせていただきたいと思っています。
- 後ろに座っている区の職員もグループの中に入れていただいています。なので普通に意見交換などしていただければ。

[全体共有]

06:10

千葉:

- Dグループから、どんな話があったのか、どなたか2分ぐらいでお話いただいてもよろしいでしょうか。

06:28

Dグループ 佐々木氏:

- 結論は出てないんですけど、まずそもそも今期のSDCは仕組みを作る、組織を作るって感じなのか、なんかやりたいことを進めていくのか、どっちなんですかっていうのをまず伺おうかなということで、どっちもやります、ってことは聞いたんですけど。それがひとつ。
- あとは楽しいことをやりたいってということと、ではその楽しいことをするために下支えするのは誰がやるのかっていうこと。楽しいことだけやっていたら、下支えする人がいない。それがちょっと課題ですね。
- あとはやっぱり若い人を巻き込みたい。特に男性の若い人はどこにいるんだろうっていう。今日もこの辺見てたんですけど、大学生かなっていうことで結論を出しました。
- 宮前区は大学がないんですけど、大学生の人はたくさんいるかなと、どこでスカウトしたらいいかなということちょっと話しました。ひとつはフロントタウンには若い人たくさんいるのでそこで誘うか、あるいは30代の若手のおじさんは飲み屋とか、そういう感じで。そこまでです。

08:07

Cグループ 小川氏:

- 今ちょうど佐々木さんから若い子、という話が出て、このCグループはとてもありがたいことに高校生がいたので高校生の話も聞けたんですけども。
- その前にひとつ質問して、同世代の子たちがSDCがもしあったとしたら来ると思う？という質問が出たんですけど、みんな高校がこころ辺にあまりなくて都内に出ている子が多いので、宮前区のオリジナルの何かっていうのがあれば来るかもしれないけど、そういうものがなかったら興味を示さないかも、という話をしてくれました。
- ついこの間のお祭りとかは来たらいいですね、お友達とか。なのでそういう昔からのお祭りとかだったら遊びにいったりするけど、オリジナリティがあるものがあれば若い人も興味を持つかもしれない、というお話がちょっと出ました。

- あとは、拠点はやっぱりあったほうがいいんじゃないか、というのもあったり、まず知ってもらうこと、SDC 自体を知ってもらうことが大事なんじゃないか、という意見も出ました。
- これは私の意見なんですけど、今実際川崎市の中で、ソーシャルデザインセンターという拠点がある場所が多摩区と幸区にあるということなので、ちょっとその視察をぜひしてみたいなというのは個人的に思いました。どういう風に活動しているのかっていうのはまったくわかっていないので、実際見てみたいなと思います。
- やっぱり楽しいとか、わくわくすることがあるとみんなやれるんじゃないか、というお話だったり、区で役所の中のひとつのコーナーを開放してみるのもいいんじゃないかとか。
- 多世代とはいうけれど、交わるのが難しい、どうやって交わっていったらいいか、そんな感じでしたね。結局話はまとまっていなかったんですが、そういう内容でした。

10:27

Bグループ 小泉氏：

- ありがとうございます。Bグループは、どこにシールを貼りましたかという話から始まりました。子育てをされている方が多く、子育て関係とかに印をつけた方が多かったので、そこから話をしていって、子育てに関わっている方であったりとか、ママ同士のつながりでママたちもいろいろやりたいとかいう方が多いんだけどどうしていいかわからない、とか。
- 例えば地域活動でもかかわりたいとは思っているんだけど、長い時間関わるのは子育てしていて、もともと時間も少ないなかで本当に短くなってしまっているので、本当に2時間だけとか、このタイミングでここだったらできるよとか、そういうマッチングができたらいいいよねっていう話をしました。
- 例えば子供会だったり、家なんかも同じ問題があるよねという話があったんですけど。組織に入ってしまうとやらねばならないっていうことも出てきてしまうので、そうではなくて気軽に参加できるような仕組みができたらいいなと。
- そういう時に、子どもに楽しい思いをさせたいけど、自分に負担がかかるのはちょっと嫌だな、みたいな方がちょっと多いかなと思って。そこを軽減するために、こういう時間帯とかマッチングするのに、例えばSDCのお墨付きみたいなのがあったら、言いやすかったり、とりまとめがしやすくなったりするよね、というところになって。区がそういうことをしやすい仕組み、基準づくりがあったらいいんじゃないかっていう話になりました。
- これ「お墨付き」をいただくのに、文書とかだとわかりにくい、という話になって、例えばイエス・ノーとか、マル・バツみたいな感じでチェックリストみたいなのがあって、そういうことの基準をクリアしていればもらえそうです、というのをある程度もうすでに、誰にでもわかるようなシートとか、チェックリストがあったら、申請したい人にとって、みんなにとってわかりやすいからいいんじゃないかっていう話も出てきました。
- SDCのシステムにしても、誰でも参加できていつでも抜けられて、という気軽な感じで敷居を低くするっていうのはすごく大事だと思うんですけど、そうするとある問題に対して、深く関わる人の確保をどうするのかっていう話になって。
- そういうコアになるメンバーの確保というところでいくと、やっぱりボランティアだけだと結構精神面みたいのところになってしまうので、そこだけだと長続きしないのではないかな。そういう意味

でボランティアにしない、ある程度の報酬も必要なんじゃないかなということ、資金面を得る寄付だったりとか、参加費とかいろいろ出てくると思うんですけど、そういったものを得られるような認知度も必要ではないか。という感じになりました。

- そういうのを得るためには、こういう活動をしてやってきてます、という人がみんな集まってきていると思うので、そこに対してのお墨付きをいただくと、そこからこういう活動をしてますっていうのがそれぞれの団体だけでは届けられない人たちに届けられるというのが大きいと思うので、その結果、SDCってこういうことやってますよ、というのが広がっていくと思う。
- そういったところに支援しますっていう企業さんなりが現れるとか。やっぱりそういう広く知ってもらう活動も大事なのではないか、というような話になりました。

14 : 25

A グループ 高橋氏 :

- A グループはいろいろと意見が出たんですけども、まずは情報発信、下に書いてらっしゃいますけど、やっぱり必要ですねっていう話になりました。
- 私の意見になりますが、情報発信だけをしてそれを解決策にしても、質、クオリティにばらつきがあるので、なかなかのっかり感を与えてしまうということがあるので。範囲はある程度できるところとできないことを明確にしないと、なんでもできるみたいになってしまうので、それはちょっと危険じゃないですかということをお知らせしました。
- それとやっぱりひとつコアになる人、一つ一つやっていく、その積み重ねですよ。すごく小さなことからやりましたけれども、やっぱり一つ一つやっていくなかで、ラウンドテーブルでやった事例を活かして継続できるなら継続したほうがいいんじゃないかという意見も聞かれました。
- とくに企業との連携というのもやられていましたので、小さなことからということであれば企業との連携というのは手っ取り早く成果が得られやすく、方向性が定まりやすいのではないですかという感じは受けるので、そういったところからまず着手したらどうかというようなアイデアも出されました。